

エペソ人への手紙の中で啓示されている
神聖な三一の神聖な分与

聖書：エペソ 1:3-14, 2:18, 3:16-19, 4:4-6, 5:19-20, 6:10-11, 17

- I. 聖なる言における三一の神に関する啓示は、教理的な理解のためではなく、神を彼の神聖な三一において彼の選ばれ贖われた人の中へと分与して、彼らに経験させ享受させるためです——Ⅱコリント 13:14：
- A. 聖書は、三一の神が単にわたしたちの信仰の対象であるだけではないことを啓示しています。彼は、わたしたちにとって主観的であり、わたしたちの中に住み、ご自身をわたしたちの中へと分与しており、わたしたちの命また命の供給となっています——ローマ 8:2, 6, 10-11。
 - B. 聖書は、支配的な原則にしたがって書かれました。その支配的な原則とは、三一の神がご自身を、彼の選ばれ贖われた人の中へと造り込んで、彼らの命また命の供給となるということです——詩 36:8-9。
- II. 神聖な三一は、聖書全体の枠組みです。全聖書、特にエペソ人への手紙は、神聖な三一で構成されています：
- A. エペソ人への手紙は、あらゆる章が基本的な要素としての神聖な三一で構成されている、聖書の唯一の書です。
 - B. もしわたしたちが三一の神を知らなければ、エペソ人への手紙の深遠さを把握することはできません。なぜなら、この書のあらゆる章は、神聖な三一をその枠組みとしているからです——エペソ 1:3-14, 2:18, 3:16-17 前半, 4:4-6, 5:19-20, 6:10-11, 17。
- III. キリストのからだとしての召会の産出、存在、成長、建造、戦いに関するエペソ人への手紙の啓示全体は、神聖なエコノミーから成っており、またキリストのからだの肢体たちの中への神聖な三一の神聖な分与から成っています。こういうわけで、エペソ人への手紙の極めて重要な焦点は、信者たちの中への神聖な三一の神聖な分与です：
- A. 第1章が明らかにしている事は、どのようにして父なる神が永遠の中で肢体たちを選び、あらかじめ定めたか、どのようにして子なる神が彼らを贖ったか、どのようにして霊なる神が担保として彼らに証印を押したか、こうしてご自身を彼の信者たちの中へと分け与えて、召会を形成したということです。この召会は、キリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満です——エペソ 1:3-14, 18-23：
 - 1. エペソ第1章が啓示している事は、手順を経た三一の分与と超越したキリストの伝達との結果です。

2. 父なる神の分与の結果は、神の永遠の定められた御旨(エペソ 1:3-6)を語り出しています。子なる神の分与の結果は、神の永遠の定められた御旨の完成を語り出しています(7-12節)。霊なる神の分与の結果は、神が完成した定められた御旨の適用を語り出しています(13-14節)。
 3. 超越したキリストは三一の神の具体化であるので、彼の超越した伝達は、三一の神の豊富な分与すべてを含んでいます。三一の神の三重の分与は、超越したキリストの伝達の中に含まれており、超越したキリストのすべてを含む伝達において完成され、究極的完成へともたらされます——15-23節。
- B. 第2章がわたしたちに見せている事は、神聖な三一の中で、すべての信者が、ユダヤ人も異邦人も、子なる神を通して、霊なる神の中で、父なる神へと近づくことができるということです——エペソ 2:18:
1. これが示している事は、この三者が、肉体と成ること、人の生活、十字架につけられること、復活というすべての過程を経た後も、同時同存し、相互内在しているということです。
 2. わたしたちは、子なる神(完成者、手段)を通して、霊なる神(執行者、適用)の中で、父なる神(起源、わたしたちの享受の源)へと近づくことができます。
 3. わたしたちは詩であり、源としての御父と、経路としての御子と、流れとしてのその霊との分与によって書かれています——10節。
 4. 御父の分与は傑作を生み出し、御子の分与は新しい人を生み出し、その霊はわたしたちを一つからだの中で御父にもたらしめます。この結果、召会の建造と神の永遠のエコノミーの成就をもたらします——10, 15-16, 21-22節。
- C. 第3章で使徒が祈っている事は、父なる神が、力をもって、霊なる神を通して、信者たちを内なる人の中へと増強し、子なる神であるキリストが、彼らの心の中にご自身のホームを造り(すなわち、彼らの全存在を占有し)、それによって彼らが満たされて、三一の神の全豊満へと至るようということです。これは、信者たちが神聖な三一の中で、神を経験し神にあずかることの最高点です——エペソ 3:16-19:
1. 御父は源であり、その霊は手段であり、御子は目的であり、三一の神の豊満は結果です。
 2. 三者はそれぞれ自分自身のためにではなく、三一の神の豊満のために行動します。これは神聖な三一の美しい絵です——参照、マタイ 12:28。

- D. エペソ第4章が描写している事は、手順を経た神が、霊、主、父として、どのようにしてキリストのからだとミングリングされて、からだのすべての肢体に神聖な三一を経験させるかということです——エペソ 4:4-6：
1. キリストのからだは、三一の神が発展する範囲です。
 2. すべての上にいる父なる神の神聖な分与、すべてを貫く子なる神の神聖な分与、すべての中にいる霊なる神の神聖な分与は、キリストのからだのすべての肢体が、三一の神を経験し享受することができるようにします。
 3. これらの節が啓示している事は、四つのパースン、すなわち一つからだ、一つ霊、一つ主、一つ父なる神が、共にミングリングされて一つの実体となり、キリストの有機的なからだとなるということです。こういうわけで、三一の神とからだは、四・一です。
- E. 第5章が信者たちに勧めている事は、霊なる神の歌で、主（子なる神）を賛美し、わたしたちの主イエス・キリスト（子なる神）の御名の中で、父なる神に感謝をささげるようにということです——エペソ 5:19-20：
1. これは、神聖な三一の中で、手順を経た神を賛美し、彼に感謝して、わたしたちが彼を三一の神として享受することです。
 2. 神聖な三一の神聖な分与を通して、わたしたちは神の子供たちとして構成され、愛と光である神の中を歩きます——2, 8節。
- F. 第6章がわたしたちに教えている事は、主（子なる神）の中で力づけられ、父なる神のすべての武具を身に着け、その霊の剣を取ることによって、霊的な戦いに従事するよにということです——エペソ 6:10-11, 17：
1. 子なる神はわたしたちの内側の力であり、御子の中で実際化された父なる神はわたしたちが身に着ける武具であり、霊なる神（すなわち神の言葉）は剣です。
 2. これは、霊的な戦いの中でさえ、信者たちが三一の神を経験し享受するということです。
- IV. 聖書の六十六巻の啓示全体によれば、神聖な三一（父、子、霊）は、神の分与のためです。すなわち、神を彼の選ばれた人の中へと分配するためです。神が三一であるのは、彼がご自身をわたしたちの中へと分与し、ご自身をわたしたちの中へと造り込み、わたしたちに享受させることができるためです。それによってわたしたちは建造されてキリストのからだとなり、キリストの再来のためにキリストの花嫁となる用意を整えることができます。キリストの再来のとき、世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となり、彼は永遠にわたって王として支配します——啓 11:15。